

グローバル 教育リーダー コース

子どもたちを世界に羽ばたく人材に!!
グローバル化の時代に応える教育力を
ともに大学院で学びましょう。

※令和9年度より「グローバル化推進教育リーダーコース」からコース名称が変更になります。

急速に進む国際化や社会の多様化に伴い、文化や言語など異なる背景をもつ子どもたちと共に学ぶ機会は、学校現場においても増えています。こうした教育環境の変化に対応するためには、地球規模の課題への理解を深めるとともに、地域社会と協働しながらその解決を目指す教育実践を担う教員の育成が求められています。

グローバル化の時代に応える教育力を備えた教員が、いま求められています。

■ 特色ある授業科目 ■

- <世界の教育> 世界各国の教育に精通する専門家から、その国の教育の実情や課題について学びます。
- <国際理解教育> ESD(持続可能な開発のための教育)やGCED(地球市民教育)の視点も取り入れながら、多文化共生や対話型・探究型グローバル教育について実践的に学びます。
- <海外フィールドワーク> 現地の学校を訪問し、授業を視察したり聞き取りを行ったりします。異なる教育文化を体験することで、日本の教育をあらためて見つめ直す機会にもなります。
- <国際情報分析(探究演習)> 国際的なテーマをもとに情報を集め、探究を通して論理的思考力やグローバルな視点を育てます。
- <グローバル教育実践報告と研究手法> 自分の実践をふりかえりながら、教育研究の方法を学び、研究としてまとめる力を身に付けます。
- <実用外国語演習> 英語でのやりとりを通して、日常でも使える実践的なコミュニケーション力を育てます。
- <外国語による表現法> 自分の研究を英語で発表したり、論文として書いたりする力を伸ばします。研究の成果を世界に発信する力を育てます。

働きながら、世界のどこからでも学べる大学院

フレックスクラスでは遠隔地の方もオンラインで受講可能。
地球のどこにいても、学びの扉は開いています。

科目区分	授業科目の領域	単位数
共通基礎科目	教員、教育専門職として必要な基礎的領域	10～
専門科目	グローバル基礎領域	6
	グローバル授業実践領域	4
	グローバル・フィールドワーク領域	4
	グローバル教育実践課題領域	4
実習科目		10
合計		46

専門科目	内容
グローバル基礎領域	◆国際理解教育I(基礎) ◆国際理解教育II(応用と実践) ◆世界の教育
グローバル授業実践領域	◆実用外国語演習 ◆外国語による表現法 ◆グローバル教育実践報告と研究手法 ◆国際情報分析(探究演習)
グローバル・フィールドワーク領域	◆グローバル・フィールドワークI(海外) ◆グローバル・フィールドワークII(国内)
グローバル教育実践課題領域	◆グローバル教育実践課題研究

実習科目	グローバル教育実践	◆学校教育基盤実習 ◆グローバル教育実践実習 ◆グローバル教育開発実習
------	-----------	-------------------------------------

共通基礎科目

- ◆特色あるカリキュラムづくりの理論と実際
- ◆教育課程における各教科の特性と課題
- ◆STEAM教育とICT活用
- ◆授業におけるICT活用
- ◆教育実践研究のためのデータサイエンス
- ◆インクルーシブ教育論
- ◆教育実践の省察と分析
- ◆授業における評価の基準作成理論と学力評価法
- ◆初等国語科教材研究・授業づくり
- ◆初等英語教材研究・授業づくり

専門科目(他コース)

- ◆カリキュラム・マネジメントと学校のオープン・イノベーション
- ◆総合学習の理論構築と実践力形成
- ◆特別活動・地域教育活動プログラムの開発
- ◆外国人児童生徒の指導と多文化共生教育
- ◆第二言語習得と外国語学習
- ◆学級づくりと教育的関係の構築
- ◆障害のある児童への指導と支援方法

これまでの「教育実践報告書」のテーマ(一部抜粋)

- ◆高等学校外国語科でのPBLによる国際理解教育の授業デザインと評価
—歴史軸×世界軸による地域探究学習の実践—
- ◆国際理解教育を背景とした小学校道徳科授業実践 —グローバル人材の育成を目指して—
- ◆沖縄県立高校における地域協働型探究学習のフレームワークの構築
—「高校魅力化」の事例を手がかりとした実践と検証—
- ◆「グローバル教育」と「歴史総合」を横断させた授業実践の成果と評価
—高等学校社会科におけるグローバル人材育成を目指して—
- ◆グローバル教育に係る教員研修の一提案 —教員の主体的な授業実践を目指して—
- ◆高校生のウェルビーイングを高めるための考察
—長野県・モロッコ・フィンランドの高校生への青年用適応感尺度と主観的幸福感尺度を用いた調査及び相関分析から—
- ◆SDGsの視点とイェナプラン教育の手法を導入した公立小学校「総合的な学習の時間」における実践と評価

Q & A

Q1. 英語が必要ですか？

A. 英語の能力は問いません。入学後、「実用外国語演習」等の授業において、学生のレベルに応じた英語指導を行います。

Q2. 英語の教員対象ですか？

A. 教科・校種は問いません。国際教育やグローバル教育に携わりたいと考えるすべての先生方、事務職の方、学部卒業後さらに深い研究・実践を追求する方等が対象です。

Q3. どのように学びますか？

A. 講義・演習などの座学とフィールドワーク・実習を通して、理論と実践の融合を目指します。専任教員に加えて、当該分野の専門家・実践者を講師として招き、最新かつ高度な専門知識・実践力が身に付く多彩な授業科目が設定されています。対面授業に加えて、オンラインで受講する科目もあります。

Q4. どのような資格が取得可能ですか？

A. 教職大学院修了者には、専門職学位「教職修士(専門職)」が授与されます。また、専修免許状が取得できるよう、授業科目を開講しています。

Q5. 海外留学できますか？

A. 授業の一環で海外フィールドワークを実施します(「グローバル・フィールドワークI(海外)」)。対象国・地域の小・中・高校を視察したり、教育機関を訪問し聞き取り調査を行ったりします。他に長・短期の留学も可能です。

Q6. 博士課程に進むことはできますか？

A. 博士課程への進学を希望する方には、よりアカデミックな研究手法や研究成果の発信方法など、研究に関する力量をさらに高められるよう指導を行っています。また、学会発表や論文執筆などの研究活動についても支援し、研究成果を広く発信できる力の育成を目指しています。これまでに、本コース修了後に本学大学院(連合学校教育学研究所)や他大学の博士課程へ進学された方がいます。

グローバル活動の様子



▲「国際理解教育II」(応用と実践)
ESDカレンダーづくり



▲「国際情報分析(探究演習)」
授業成果発表(ハイフレックス型)



▲「グローバル・フィールドワークI(海外)」
カンボジア教員養成校(令和7年度実施)

■入学者選抜関係日程: [8月選抜] 出願期間:令和8年 7月 1日(水)～令和8年 7月 8日(水)【必着】
[11月選抜] 出願期間:令和8年10月 7日(水)～令和8年10月14日(水)【必着】
[2月選抜] 出願期間:令和9年 1月21日(木)～令和9年 1月27日(水)【必着】

試験日:令和8年 8月22日(土)
試験日:令和8年11月21日(土)
試験日:令和9年 2月27日(土)